

たくさんの笑顔で地域をつつみます。

広報

# せきあい

通巻10号

2021年

冬

発行：社会医療法人 関愛会

特集

よりそい、つながり、つむぐ  
坂ノ市・神崎エリアの多職種連携



第2特集……………第39回大分県病院学会で職員が発表  
きよかわの風……………消すまい文化の灯 医師の脚本演じた地元劇団  
地域を深掘る……………学校給食でおなじみ 創業100年余の古山乳業  
もっと教えてドクター…小児科医が子宮頸がんワクチンを解説



# よりそい、つながり、つむぐ 坂ノ市・神崎エリアの多職種連携

老いても病んでも安らかな暮らしを

地域で人を支える医療と介護

「病院完結型」から「地域完結型」へ——。日本の医療が大きな変化を求められるなか、社会医療法人関愛会は、2004年の設立当初から地域で暮らす「生活者の視点」を大切にしてきました。目指すのは、年をとっても病気になるっても、最後まで住みなれた地域で暮らし続けるお手伝い。そのためには、介護や福祉を含め様々な専門性を持つスタッフを力を合わせる必要があります。

## ■ALSだけで立てた

それは、ちょっとした「奇跡」が起きた瞬間だった。11月5日午後、大分市本神崎にある「ナーシングホーム輝（ひかり）」の一室で、人工呼吸器をつけたALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者、Kさんは、ちよつとぐらつきながら、ベッドサイドに立ち上がった。「すごい、すごい」。倒れないよう支えるスタッフからは驚きの声があ

がったのも無理はない。1カ月前、Kさんが立つ姿を誰が予想できたろうか。

## ■退院して「自宅」に

暦の上ではとうに秋だが、夏のような日差しが照りつける。10月6日朝、「輝」のスタッフは、新たな入居者を受け入れる準備に追われていた。



車で30分ほどの大病院から救急車が到着した

午前11時前、1台の救急車が静かに到着した。車で30分ほど離れた急性期病院から退院してきたのは、人工呼吸器をつけたばかりの70歳のKさん。ストレッチャーに乗ったまま、4人から慎重に「輝」の中に運ばれ、スタッフ・ステーションに最も近い1号室に入る。ベッドへの移乗には8人が



ストレッチャーから8人がかりでベッドに移した

力を合わせた。

同じ法人の佐賀関病院から来た臨床工学技士（ME）の永井克徳が、Kさんの呼吸器を細かく調整する。酸素の血中濃度は正常値の範囲内だが、いつ

もよりやや低めのようなだ。救急車に乗っての移動が心身に負荷をかけたのかもしれない。

永井たちMEは週1回の定期的なチェックに加えて、緊急時には時間外でも現場に駆けつける。「看護師や介護職は24時間の見守りやお世話をす。何かあれば生死に直結するので気が抜けません」と永井。その言葉には、「輝」で働く同僚たちへの自然なリスペクト（敬意）がにじんだ。

## ■病院並みの老人ホーム

関愛会のベテラン看護師で、「輝」の管理者である上本文子が、Kさんに声をかけた。「今日からここが『ご自宅』です。落ち着いたら、ゆっくりお話ししましょうね。」

そう。木製のフローリング、オフホワイトの壁紙が落ち着いた雰囲気醸し出す「輝」は、治療するための病院とは違う。日常生活の場、有料老人ホームである。

しかし、21人の入居者のうち、人工呼吸器を装着しているのはKさん含めて4人。他の入居者も、がんなどで

医療や介護の注意深いケアが必要な方がほとんどだ。

「輝」の入居者への医療は、訪問診療する医師と、訪問看護ステーションの看護師が担い、介護は、「輝」所属の介護職が行っている。

「老人ホームなので検査機器などはありません。でも、ベテラン職員が多いので経値は高い」。坂ノ市・神崎エリアの看護師を統括する上本はそう評する。



「輝」には人工呼吸器を使う入居者4人が暮らす

手厚い看護や介護を受けるとはいえ、入居者はごく普通に地域で暮らしてきた人たちばかり。他の有料老人ホームと比べ、特に料金が安いわけではない。公的な医療保険と介護保険などの給付を使えば誰でも入居できるような料金設定してある。

「輝」ができたのは2015年。それ

まで佐賀関・神崎エリアに「病気は治ったが、生活するうえで引き続き医療的ケアが必要」という住民が暮らせる施設はなかった。

このままでは、住みなれた地を離れ、遠くの療養型の病院に入院せざるをえない住民が増えてしまう。しかし、国の方針により病院のベッド数が厳しく制限される中で、この地で新たな病院をつくるのは非現実的だ。そんな状況を打開すべく生まれたのが「ナーシングホーム輝（ひかり）」だった。

どんな病を抱えた入居者であろうとも、住みなれた地での「在宅生活」を丁寧に支える。そのために手厚い医療的ケアのできる「第3の病棟」になる――。日常的に医療を必要とする人のための施設を意味する「ナーシングホーム」。「輝」がそう名乗るゆえんだ。

#### ■「ゆれる心」によりそう

「腕が上がらない。洗濯物を干すのも難儀する」。そんな症状をきっかけに、Kさんが県内の大きな病院で筋萎縮性側索硬化症（ALS）の診断を受けたのは、「輝」入所の1年ほど前だった。「車椅子の天才物理学者」として知られる、英国のホーキング博士と同じ病気で、手足やのどなどの筋肉が少しずつ弱まっていく。

自宅での療養生活を支えるため、主治医として月2回、訪問診療に入った医師が管聡（すが・さとし）だった。坂ノ市病院の院長である。

Kさんは、体調を崩したり大病院で



訪問診療の医師は在宅生活を支える要となる

の専門的な治療を受けたりした後は、坂ノ市病院に入院。回復すれば自宅に戻った。大きな病院と地域との橋渡しもしながら在宅生活を支える。それが、坂ノ市病院のような「地域包括ケア病棟」の役割だ。

ただ、病の進行は予想以上に速かった。呼吸をつかさどる筋力の低下で、息苦しさが増した。別の大きな病院に入院し、人工呼吸器を装着したのが今年9月。

ALSの患者さん本人や家族、そして医療者にとっても、呼吸器をつける

かどうかは大きなターニングポイントとなる。つけない選択は、生の終わりを受け入れることを意味する。つければ、自ら声を出しての会話が厳しくなる。

その決断は、あまりに難しい。国が提唱する「人生会議」（アドバンス・ケア・プランニング）は、本人、家族、そして医療や介護などケアに携わる人間が繰り返し話し合い、本人の意思決定を支えるプロセスだ。

話し合いを重ねるなかで、Kさんも一度は「つけない」という意思表示をしたこともあった。

「でも、つけるか、つけないかの間で、心はゆれる。1回話し合って決めたら最後というわけではない。そのゆれに、おつき合いするのが、私のスタンスです」。そう話す管は、病が進むなかでも、ゆれる振り子の針は、「生き続ける」という選択へ向かっていると感じていた。家族とのきずなが強まっていたからだ。

人工呼吸器をつけるため、県内の大病院へと転院する直前、坂ノ市病院所属の言語聴覚士、田嶋由貴はKさんにある提案をした。

「呼吸器をつけると自分の声が出せなくなります。その前に家族へのメッセージを録音しておきませんか」

息苦しさに耐えながら、絞り出すよ



うにKさんが語ったのは「迷惑をかけたな。ごめん」という謝罪の言葉がほとんど。だが、最後にこう言った。「まだ生きてるから、お願いします」と。

Kさんには家族の支えがある――。管の洞察が射っていたことは、入所の日に駆けつけた家族2人(妻と娘)の様子から十分にうかがえた。

病院ではコロナ禍で面会もままならず対面できたのは、ほぼ2カ月ぶりという2人は、「呼吸が苦しかったときと比べると、表情がずっと穏やかになりました」と口を揃えた。

家族から声をかけられ、手を握ってもらったKさんは、満面の笑顔を見せた。あたたかく親密な空気がベッドサイドを満たした。

同じころ、「輝」のホールでは、介護福祉士の内田昭彦が黙々と、病院から運ばれてきたKさんの私物を整理していた。ここで24時間365日を過ごす入居者にとって、快適な生活の場に行けるかどうか。すべてのスタッフの地道な営みにかかっている。

### ■「おかえり、Kさん」

「輝」への入居後しばらくたったKさんのもとを訪れたのは、大塚奈々。坂ノ市病院地域連携課で、在宅医療の調整を担う医療ソーシャルワーカー



介護職の地道な営みが日常を支える

(MSW)だ。

「おかえりなさい」。大塚のかけた言葉は、Kさんが病院から「在宅」に戻ってきたことを象徴していた。

Kさんが最初に坂ノ市病院を受診し、訪問診療の契約を結んだ1年前から在宅生活の実現のため奔走したのが大塚だ。

前回、Kさんと会ったのは9月下旬、呼吸器を装着した大病院で、退院に向けたカンファレンスが開かれたときだ。Kさんの退院の段取りとその後の生活を準備するため、看護師の上本と2人でこの会議に出席した。

通常、病院勤務のMSWは、入院患者を自宅や施設に「送り出す」のが仕事。だが、大塚をはじめ坂ノ市病院のMSWは、退院する患者を「受け入れ

る」側にも立つ。

どういうことか。

関愛会では法人全体で1200件の近い訪問診療を行っている。最も多いのは、大塚が常駐する坂ノ市病院で340件(2021年現在)。その訪問診療は、医師が月1〜2回診察に訪れ、24時間の連絡に応じるのにとどまらない。

本人とご家族と会って、訪問診療について十分に説明し納得してもらってから契約を結ぶ。適切な介護などサービスを受けられるようケアマネジャーや行政、有料老人ホームの担当者と調整する……。つまり、「在宅」での生活をコーディネートすることすべてが含まれる。

通常の退院支援を超えて、本人を取り巻く「社会」と向き合う。それが関愛会で求められるソーシャルワークだ。大塚はそのことに面白さを感じ、また誇りに思っている。

Kさんが「輝」に入居するまでには紆余曲折があった。もともと、新しくできた別の有料老人ホームに入居することが決まっており、それに備えて住んでいたアパートも引き払っていた。

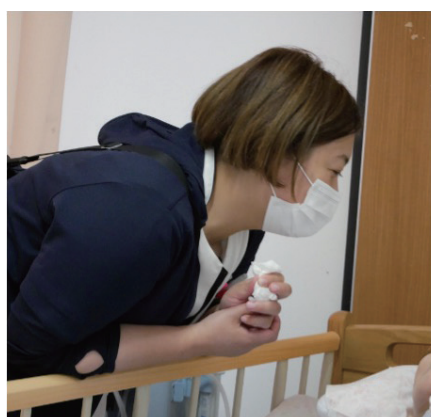
ところが病の進行が速く、より高いレベルの医療的ケアが必要となり、できたばかりのホームで受け入れるの

は難しくなった。こうした状況の変化を逐一、家族やケアマネ、ホーム側と情報共有する役割も大塚が担ってきた。

ちよつと寂しがりのKさん。家族と「会話」が何よりの癒やし……。そう感じた大塚は、ある提案をした。

意思伝達装置の活用だ。センサーを使用し、身体の一部をわずかに動かすだけで文字などが入力できる機器で、市に申請すれば購入費が支給される。

ニーズを発見し、制度の利用を提案する。状況の変化に対応しながら「生



MSWは「在宅生活」をコーディネートする

活の場」を整える。MSWの仕事に終わりはない。

### ■「あきらめない」リハビリ

Kさんの「輝」入居から2週間ほどたった。

「少し体を起こしてみましようか」。



作業療法士（OT）の富永隼斗は、電動ベッドの角度を少し上げた。

人工呼吸器をつけたALSの患者であつてもリハビリは生活の質（QOL）を維持するのに不可欠だ。富永は、言語聴覚士（ST）の柴北美由貴とともに訪問リハビリテーションに通っている。

当初、2人が目標に掲げたのは、ベッドに座る姿勢（端座位）をとれるようになることだった。Kさんのように、呼吸する力が弱まると痰がたまりやすくなる。寝た切りだと、たまった痰を自分の力で押し上げるのが難しくなり、吸引の頻度が増す。本人にとって大きな負担だ。

身体面とともに気がかりなのは、精神面への影響だ。「寝たきりのままだ



作業療法士と言語聴覚士がリハビリを担う

と、視界が天井だけになって刺激が入らないのです。周囲の音は聞こえるが、何が起きているか見られないのもストレスになります」

だからこそ、体を起こした姿勢をできるだけ長時間維持できるのは大事。それには身体が重力を受け止める筋力を取り戻さなければならぬ。

富永は、Kさんが立つて歩いていた姿を知っている。自宅で暮らしていた時から週2回、訪問リハビリに通っていたからだ。「腕が上がらないからインターフォンに出にくい、といった訴えはありました。でもよくしゃべるし、笑顔も見せていた。控えめながら、ほがらかな人でした」とふり返る。

ベッドの角度を30度まで上げようとするとKさんは少し苦しげな表情になった。無理は禁物だ。ベッドをほぼフラットに戻し、腕や肩、足の施術に移った。どこまで自力で動かせるのか、痛みは出ないのか――。確認しながら富永はKさんに声をかけ続けた。「車いすに乗れるようになったら、家族と外で会うこともできますよ。がんばりましょう」と。

「自分らしい暮らしをあきらめない」。リハビリのスタッフたちが大切にしている理念である。その思いが通じたのだろうか。リハビリを続けるうちに、Kさん本人から「座ってみたい」と

いう意志表示があった。

富永には心配もあった。寝たきりだった人は、「第2の心臓」とも言われるふくらはぎの筋肉が衰え、血圧を上半身に送り出す力が弱まっていることが多い。このため、体を起こすと血圧が急低下するおそれがある。

その懸念は杞憂に終わった。Kさんは、まずベッドに腰掛け、次には立ち上がり、そして車いすへの移乗を成し遂げた。そしてガラス越しながら、愛する家族との面会を果たしたのだ。

「寝ているときの表情と全然違うね」。スタッフはその変化に喜び、そして大いに勇気づけられた。



「輝」では看護師と介護職が力を合わせる

## ■「時々入院、ほぼ在宅」

この記事の筆者（浜田）は朝日新聞の記者として20年以上、霞が関・永田町で医療や介護の政策取材してきました。記憶に残っているのが、今から8年前の2013年8月に国がまとめた「社会保障制度改革国民会議報告書」です。

医療はかつての「病院完結型」から、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療、実のところ医療と介護、さらには住まいや自立した生活の支援までもが切れ目なくつながる医療に変わらざるを得ない。

## （Ⅱ 医療・介護分野の改革）

日本の医療・介護が果たすべき大きな転換の宣言であり、その後、厚生労働省は「時々入院、ほぼ在宅」というキャッチフレーズのもと「地域包括ケア」を推進してきました。

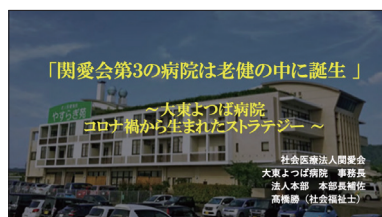
実のところ「治し支える医療と介護」を実現しているのは、現場で働く1人ひとりの努力である――。当たり前だが、見過「されがちな事実を伝えたい。そんな思いで、私を研修生として受け入れてくれた関東会の職員に話を聞き、ケアの現場を肌で感じています。

（浜田陽太郎）



11月28日、第39回大分県病院学会が開催されました。感染拡大防止のため、学会は現地開催（於B-CON PLAZA）、ライブ配信とオンデマンド配信※からなるハイブリッド形式で行われ、関愛会からも地域連携カテゴリを中心とした一般演題のエントリーがありました。各発表者と学会事務局の許諾のもと、それらの概要をご紹介します（記載は登録番号順）。

※オンデマンド配信は2021年12月1日～12月15日



## 高橋 勝

大東よつば病院

社会福祉士

演 題

関愛会第3の病院は老健の中に誕生  
～大東よつば病院・コロナ禍から生まれた戦略～

社会医療法人関愛会は大分県内外に複数の拠点を置き、医療、介護等の事業を展開している。2020年3月21日、連携医療機関から転院した患者から佐賀関病院で2名、坂ノ市病院で1名のCOVID-19陽性が確認された。院内感染は阻止できたものの経営的打撃は大きく、特に佐賀関病院の病床稼働率減は深刻だった。一方、佐賀関地域の人口減少を背景としたケア資源再編等の将来計画は兼ねてから当法人内で議論されてきた。患者、利用者の生活、及び職員の雇用を守る為、また法人の中期的計画を併せ、同年5月、「大東よつば病院」の開設が決定された。



坂ノ市病院  
外来リハビリの取り組み  
～柔軟な対応を目指して～

社会医療法人関愛会  
坂ノ市病院 リハビリテーション課  
理学療法士 田中健士

## 田中 健士

坂ノ市病院

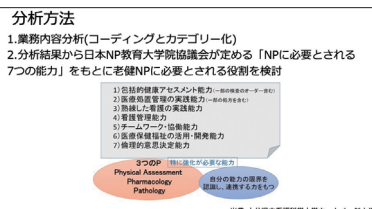
リハビリテーション課

理学療法士

演 題

外来リハビリの取り組み  
～柔軟な対応を目指して～

坂ノ市病院における外来リハビリとして、様々な事例と向き合った。その中には、生活に困っているが、様々な背景によりリハビリを受けることができない事例があった。そのような事例に対し、坂ノ市病院の外来リハビリとして、取り組んできたことを紹介する。



## 佐藤 健誠

共同発表者：谷山 尚子、赤峰 寿子、姫野 圭子、高橋 勝、長松 宜哉

介護老人保健施設やすらぎ苑

診療看護師

演 題

介護老人保健施設における診療看護師の役割検討

2025年に向けた在宅医療の体制構築に向け「地域医療構想による病床の機能分化」及び「医療依存度が高い患者の在宅医療への移行」が進んでいる。介護老人保健施設は在宅復帰を目指すための中間施設であるが、近年では医療依存度の高い利用者の受け皿としての機能も期待されている。演者は現在老健で診療看護師（NP）として活動しているが、活動のニーズは高い。今回、老健におけるNPの役割について検討したため報告する。





## 工藤 真一

大東よつば病院

事務

### 演題

老健・病院一体型でのベッドマネジメントを模索して  
～大東よつば病院開院から～

大東よつば病院は、社会医療法人関東会の3つ目の病院として、令和3年2月1日に大分市松岡地区に産声をあげました。当院は介護老人保健施設50床(超強化型)・病院40床(地域包括ケア病棟)建物一体型施設としてベッドマネジメントを行っている。本発表では、当院開院から現在に至る病床運営の取り組みについて報告する。



## 竜田 洋文

大東よつば病院

事務

### 演題

病院新規開設時の許認可・入院料等施設基準行程  
～県内4年振りの病院開設事例・大東よつば病院のケース～

社会医療法人関東会は2021年2月1日、当法人としては3か所目となる「大東よつば病院」を新規開設した。「病院」の開設は県内では4年振りであり、稀有な事例である。当院開設に至るまでの開設許認可、特に入院料等、施設基準の推移について報告する。



## 片桐 光代

大東よつば病院

看護師

### 演題

老健から病院への転換における病棟改造  
～大東よつば病院開院・看護部として～

地域包括ケアの推進を理念に上げている関東会は、2021年2月1日に佐賀関病院、坂ノ市病院に続く3か所目の病院となる「大東よつば病院」を大分市松岡に新規開設した。開設にあたり、老人保健施設を再編、再編後の老健の建物に許可病床を編入するという特殊な方法を使った。その為、ケア内容等の変更、構築について試行錯誤した。本発表では開設準備の過程、及び開設後の運用の中で行った創意工夫の中から、老健から病院へ転換した際の環境・設備面の変更や見直しについて報告する。



## 釘宮 麻衣子

共同発表者: 杉本 剛、後藤 聡美、工藤 綾乃、副田 拓希、原口 和之

法人本部

産業カウンセラー

### 演題

佐賀関病院メンタルヘルスサポートチームの発足

長引くコロナ禍において、日々の業務で強い緊張を強いられる医療従事者は心身ともに疲弊しがちな状況に置かれている。職員の精神的なサポートの必要性を実感し、佐賀関病院メンタルヘルスサポートチーム発足に至った。体調不良や濃厚接触者となり自宅待機する職員やその管理者からの相談対応や、セルフメンタルケアシートの作成周知、全体ミーティングへの参加による体調不良者の記録、セルフケアの提案などの活動を通して、佐賀関病院職員へのメンタルヘルスサポートを実施している。

診療所発、つれづれエッセイ

# きよかわの風

— 第10回 —



清川診療所  
坪山 明寛 医師  
(つばやま・あきひろ)

内科・血液内科。  
モットーは「一日一笑」、  
「医道人道」。俳句、写真撮影、  
童話創作、囲碁、植物いじり  
を愉しむ多趣味人

## 消すまい文化の灯

妻と一緒に清川町の神楽会館で芝居を見た。県内のコロナ感染者が落ち着いていた今年の夏のことだ。清川を拠点に活動する「夢中劇団みかど」が、「神々とアマビエの談義」―コロナに打ち勝つこ

託宣―を上演したのだ。  
御高齢の劇団員さんが奇抜な衣装のアマビエをはじめとした神々に扮し、高天原を模した手作りの舞台上で、劇輕に振舞い、セリフに魂を込め、素朴にアドリブ豊かに演じ終えた時、私は心からの敬意を込めて惜しみない拍手を送った。

劇団を主宰するK氏は、演劇を通して地域活性化に長年取り組んでこられた。伝説や歴史ものを得意とし、私の脚本を幾度か演じてくださった。最初は約20年前、私が同人誌「おの路」に執筆した寸劇「頑固爺さんの涙」。2回目は平成30年、第33回大分国民文化祭に向けて書いた創作劇父帰る」だ。

昨年10月の外来受診時、K氏が「先生何か書いてくれ」と頼んで来た。私は「分

かりました。何か考えましよう」と承諾した。もちろん私は脚本家ではないし自信もなかったが、今回の「神々とアマビエの談義」を書いて渡した。

私はK氏の生きざまに強く惹かれる。

なぜか？ 病を押して手弁当で「清川の町に文化の灯をともし続ける」ことを生き甲斐に、子供のように演劇に夢中になる生き方に、羨望と共感を覚える。一つの物語をもとに、言葉・音・所作・衣装・背景・光と影を組み合わせ、素人の演技によって劇として産み出す力は並大抵ではない。

K氏をはじめ劇団員の方々の「清川町に文化の香りを放ちたい。人々を元気にしたい」という純粋な思いと活動にひれ伏するばかりだ。私はK氏の劇一筋の歩みに、山頭火の俳句「この旅、果てもない旅のつくつくぼうし」が重なってより強く共感を覚えるのだ。

私も日々の診療の中で、科学



「夢中劇団みかど」と坪山医師（右から3人目）

のみで判断できない問題に直面した時、土地と人に根付いてきた文化（家族関係、年齢、生き方、価値観、信仰、習慣など）に寄り添うことで解きほぐされた経験を幾度もした。

また地域には民間医療の文化もなお息づいている。お腹の調子が悪い時に、

自作の梅肉エキスを第一選択にする翁がいる。約30個の青梅の皮をすり潰し2時間煮詰めて作るという。それを聞いたら、子供の頃、母親がくれた黒い粘稠な液の味が蘇り、口中に唾液が出てきた。不確実さを根底に持つ医療において、この梅肉のように代々繋いできた文化は、祈りにも似た安心感を与えるのだ。

K氏が、地域文化の灯をともし続けようと芝居にかける情熱は、精神と肉体の健やかさを保つ原動力にもなる。

コロナ禍で人が笑うことを忘れ、それが精神および肉体に悪影響を及ぼしている。こんな時こそ笑って生きて欲しい、笑顔溢れる清川町であって欲しい――。今回の脚本には、そんな祈りを込めた。

「夢中劇団みかど」には及ばないが、私も医療だけでなく、稚拙ながら書くことで清川町の文化に役立ちたい。また機会があれば夢中劇団と一緒に楽しく夢のある物語を紡げればと願っている。



## 給食でおなじみ

## 地元愛あふれる佐賀関の乳業メーカー

佐賀関病院から徒歩5分、創業106年の歴史を持つ古山乳業。大分県のマスコットキャラクター「めじろん」のイラストでおなじみの学校給食用「大分つ子牛乳」など、地元愛あふれる乳製品づくりに日々取り組んでいます。今夏27年ぶりに大がかりな設備の入れ替えを行った工場で、社長の古山信介さんにお話をうかがいました。

### 古山牛乳はどこから来るのですか？

大分市内の酪農家2軒と契約し、乳牛約300頭分の生乳（1日約5500ℓ）を直接仕入れていきます。親子孫3代でのおつき合いがある牧場もあるんですよ。大手のメーカーでは、たくさんの牧場から生乳を集めて貯蔵し、搾乳から2日から3日ほどで出荷するのが一般的です。一方、弊社では契約牧場から生乳を工場に直接搬入し、搾乳から16時間ほどで出荷できるのが強みです。

### コロナ禍で

どんな影響がありましたか？

昨年の一時期は学校が休校になり、普段なら1日あたり紙パック（200cc）1万8千本つくる学校給食用の牛乳が出荷できませんでした。そんな中、家庭

の事情で十分な栄養が取れない子供たちのことを知り、1日のうち1食でもバランスの取れた食事を学校でとる大切さを感じました。私たちの牛乳が、毎日の学校給食の一端を担う、その役割の大きさをあらためて考える機会になりましたね。

### 佐賀関の工場で設備を

一新したそうですね。

今年8月、約27年ぶりに入れ替えたのは紙パックに牛乳を充填する機械です。紙容器を成形し、牛乳を注いでフタをするまでの工程を無人のクリーンルーム内で行うことができる最新型を採用しました。これで学校給食用の牛乳などをより安定的に供給することが可能となり、省力化、省エネルギー効果もあらわれています。

### 大手乳業メーカーとの違いを

どう出してきたのですか？

38歳で社長を引き継いだ私の役割は、日本全体の景気が芳しくない中での収益改善でした。たどり着いた答えは「自分が食べておいしい、飲んでおいしい商品」をシンプルに長くつくり続けること。その過程で収益が上がらないコーヒーストックなどはやめて品目を絞りました。

もう一つは、地域性を際立たせる戦略です。学校給食用の牛乳には「めじろん」、カボスヨーグルトには「カボたん」など、大分県民にはおなじみの絵柄をあしらったパッケージにしています。「湯あがりのむヨーグルト」は、今や全国的な知名度がある「おんせん県おおいた」の湯桶のロゴを入れ、県外のお客様であっても、「知っているから安心して手に取れる」よう工夫しています。

### 最後に牛乳をおいしく飲むための

ヒミツを教えてください。

牛乳は、季節によっても味が違うんです。冬は乳牛が脂肪分を蓄えるのでコクがあり、夏は水分をたっぷり摂るのでさっぱりした味わいになります。季節ごとのおいしさを味わっていただけたら嬉しいですね。

実は、私たちの牛乳は、独自の製造工程のため、製造日が新しいほどおいしいというわけでもないんですよ。製造してから2、3日目甘味やコクのバランスが取れておいしく飲んでいただけると思っています。

### 夫婦二人三脚で

1960年生まれの信介さんは関西の大学ではヨット部で活躍。卒業後、キューピーの関連企業に就職し、東京や長野での勤務を経て大分に戻る。東京で出会った奥様の眞奈美さんは社会保険労務士の資格を持ち、取締役として経営を支える。



### 有限会社古山乳業

（こやま・にゅうぎょう）

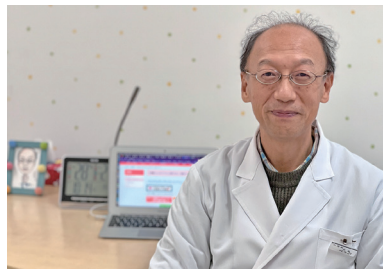
大正4（1915）年、創業。従業員11人で、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を製造し、県内のスーパーに出荷するほか、ここ10年ほどは、「湯あがりのむヨーグルト」などの商品を首都圏のスーパーにも出品している。企業理念は、安心・信頼・工夫。

※YouTubeで配信中の「知ったく大分市特別版 ものづくり企業ガイドブック」で古山乳業を紹介しています。ぜひご覧ください。

# もっと教えて! ドクター

三重東クリニック  
別府 幹庸 副院長（小児科）  
（べっぶ よしのぶ）

平成4年 自治医科大学医学部卒業  
日本小児科学会会員（小児科専門医）  
日本小児腎臓病学会会員  
日本プライマリケア連合学会会員



Q1

中学生の娘がいるのですが、子宮頸がんワクチンはリスクがあると聞いて、受けさせるべきか悩んでいます。ワクチン接種のメリットとリスクについてどのように考えれば良いですか。

A1

まず、今の日本では子宮頸がんは年間約1万人がかかり、約2,800人が死亡しています。患者数・死者数とも近年漸増傾向にあり、特に、他の年齢層に比較して50歳未満の若い世代での罹患の増加が問題となっており、「妊娠可能な若い女性が多くなるがん」になってきています。一方、諸外国では子宮頸がんワクチンと子宮頸がん検診が普及することにより、徐々に患者数が減少してきています。

子宮頸がんは他のガンとは違い、性交により感染するヒトパピローマウイルスというウイルスの感染により起こることがわかっています。子宮頸がんワクチンは、このヒトパピローマウイルスの感染を予防するためのワクチンです。

このワクチンはヨーロッパやオーストラリアでは15年ほど前から広く導入され、特に問題なく現在まで多くの若年女性に接種されてきました。日本でも平成25年に定期接種となりましたが、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛」が報告されるようになり、同年6月14日、積極的な接種勧奨の一時差し控えが発表されました。そして、この発表前後には多く様々な報道がなされ、「子宮頸がんワクチンは危ない」という観念が植え付けられてしま

いました。接種者は激減し、接種率は1%未満へと一気に低下しました。ただし定期接種には継続して指定されており、接種希望者は無料で接種できます。

翌年の平成26年1月20日の第7回予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会では、持続的な疼痛などのメカニズムとして、①神経学的疾患、②中毒、③免疫反応、④心身の反応を考えましたが、①から③では症状を説明できず、④の心身の反応によるものとされました。つまり、ワクチンによる中毒やワクチンにより生じた免疫異常ではなく、心因によるものが考えられるという結果です。

しかし、全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が組織され、国や製薬会社に全面解決要求書を提出するような動きがあり、当面は接種勧奨の差し控えをつづけるという方針となりました。そして副反応として因果関係が否定できない患者さん達には医療費を支給するなどの救済が行われました。

名古屋で行われた「名古屋スタディ」という調査があります。これは、3万人の子宮頸がんワクチンを受けた人と受けていない人とを比較したアンケート調査で、24種類の症状（関節痛や倦怠感などの多様な症状）の頻度は接種した人と接種しなかった人との間に有意な差が

ないとの結果で報告されています。

非接種者との差がないということは、子宮頸がんワクチンのリスクは極めて小さく安全性には問題がないということです。医療行為であることから、100%の安全を担保するものではありませんが、リスクは小さくメリットはすごく大きいといえます。そして、厚生労働省の専門家部会では呼びかけを再開することを決めました。接種後に多様な症状が長く続いておられる患者さんには手厚くフォローを続け、将来の若い子宮頸がん患者さんを減らすための努力を再開していただきたいと切に願います。

Q2

子宮頸がんワクチンは定期接種ですが、スケジュールはどのようになっていますか。

A2

現在、日本ではサーバリックス（2価ヒトパピローマウイルスワクチン）、ガーダシル（4価ヒトパピローマウイルスワクチン）の2つの製剤が定期接種として認可されています。接種スケジュールは3回接種で、サーバリックスは初回接種、初回接種後1ヶ月、初回接種後6ヶ月、またガーダシルは初回接種、初回接種後2ヶ月、初回接種後6ヶ月で接種するのが良いとされています。ただし、様々な理由できっちり6ヶ月の間に終わらせることができなかったりしますので、接種期間はある程度の幅をもたせることが可能です。接種する医療機関とよく相談して決めると良いでしょう。



## 2年ぶりの日本選手権、完走を果たす

トライアスロン 新田城二選手(関愛会法人本部財務部所属)

第27回日本トライアスロン選手権が2021年10月23日、宮崎市のリゾート施設シーガイア周辺を会場に開催され、関愛会所属の新田城二選手が出場しました。ケガとコロナ禍の影響により、オリンピックと同じ距離(スイム1.5km、バイク40.0km、ラン10.0km)で競う大会への参加は2年ぶり。強い横風の難しいコンディションでリタイアする選手も続出する中、参加31人中25位でゴールした



新田選手は「平常心で臨めましたし、完走できてホッとしました」とレースをふり返りました。

この2年間はケガからのつらいリハビリに耐え、種目ごとの練習を積み重ねて

きました。今回は久しぶりの本格的な大会で、勝負勘を取り戻すのに苦労したといえます。トライアスロンでは、スイムか



らバイク、バイクからランへと種目を移るランジションの際に「体の切替えをいかにスムーズに行うかが勝負のカギを握るからです。

これからは、実戦に必要な力を強化することを目標に、デュアスロン(ラン、バイク)の順で走る競技の大会にも出場する予定です。

「いつも応援ありがとうございます。オリンピックという目標に向けて、海外の大会出場も視野に入れながら、ランクを上げていきます」と語ってくれました。

## 第28回 関愛会学術集会開催!!

今回で3度目の開催となったWEBでの学術集会。今回は大東よつば病院の立川院長の基調講演をはじめいろいろな事業所、職種より発表がありました。アンケートでは「ゆくり見返すことができるのでWEBでの開催を続けてほしい」や「やっぱり対面の方が熱量が伝わってよい」等の意見があり、次回以降の参考にしたいと思います。



基調講演  
大東よつば病院、立川 洋一

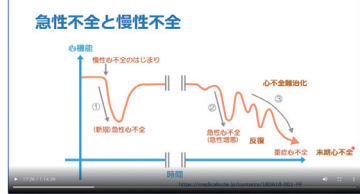


一般演題



心不全の包括ケア-大分県心不全包括ケアカンファレンスによる大分県心不全対策推進事業-

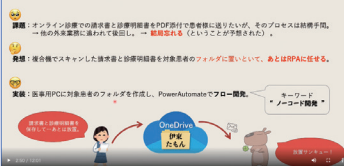
◎立川 洋一(大東よつば病院)



～PDAをオンライン診療でやってみた件～

◎伊東 多美(法人本部)

請求書と診療明細を迅速に送付してみた件



地域包括ケアを目指して  
関愛会運営施設

社会医療法人 関愛会 〒879-2201 大分県大分市大字佐賀関 750-88 TEL.097-575-1172



## 機能強化型在宅療養支援病院 坂ノ市病院

〒870-0307 大分市坂ノ市中央1-269  
TEL.097-574-7722

入院病床:36床(地域包括ケア病床)

- 在宅医療連携センター
- 坂ノ市リハビリテーションセンターもみの木(通所リハ・定員50名)
- 坂ノ市病院訪問リハビリテーション事業所
- 坂ノ市メディカルフィットネスジムABIES
- 医療型特定短期入所さくらん(定員6名)

診療科  
内科・小児科・消化器  
内科・呼吸器内科・リ  
ハビリテーション科



## 機能強化型在宅療養支援病院 佐賀関病院

〒879-2201 大分市大字佐賀関750-88  
TEL.097-575-1172

入院病床:71床

(地域一般病床8床、回復期リハビリテーション病床42床、地域包括ケア病床21床)

- 大分県へき地医療拠点病院
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設認定病院
- 大分DMAT指定医療機関

診療科  
内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・小  
児科・整形外科・外科・肛門科・耳鼻咽喉  
科・眼科・リハビリテーション科・歯科



### 機能強化型在宅療養支援診療所 王子クリニック

〒870-0009 大分市王子町1-11  
TEL.097-536-6633

診療科  
内科・消化器内科・  
心療内科



### 機能強化型在宅療養支援診療所 こうぎきクリニック

〒879-2111 大分市大字本神崎251-8  
TEL.097-576-1782

- こうぎきデイクア・リハビリテーションセンターもみの木  
(通所リハ・定員60名)
- こうぎきクリニック訪問リハビリテーション事業所

診療科  
内科



### 機能強化型在宅療養支援診療所 よつばファミリークリニック

〒870-0126 大分市大字横尾1859  
TEL.097-520-8686

診療科  
内科・小児科



### 在宅療養支援診療所 清川診療所

〒879-6903 豊後大野市清川町砂田1877-3  
TEL.0974-35-3561  
TEL.0974-35-2333

診療科  
内科



### 機能強化型在宅療養支援診療所 江別訪問診療所

〒069-0852 北海道江別市大麻東町15-18  
(大麻東町商店街内)  
TEL.011-386-3233

診療科  
内科



### 高齢者介護施設 ひまわり

〒879-2201 大分市大字佐賀関880-1  
TEL.097-524-4141

- 佐賀関デイクアひまわり(定員50名)
- ヘルパーステーションひまわり
- ケアセンターひまわり(居宅介護支援事業所)



### ナーシングホーム ひかり輝

〒879-2111 大分市大字本神崎256-4  
TEL.097-578-8133  
(入所定員22名)



### 機能強化型在宅療養支援病院 大東よつば病院 介護老人保健施設 やすらぎ苑

〒870-0125 大分市大字松岡1946  
大東よつば病院 TEL.097-520-3555  
入院病床40床(地域包括ケア病床) 診療科:内科・循環器内科  
介護老人保健施設 やすらぎ苑 TEL.097-520-3535  
入所定員50名

- 大東リハビリテーションセンターもみの木(通所リハ・定員40名)
- 大東よつば病院訪問リハビリテーション事業所
- 在宅ケアサポートやすらぎ(居宅介護支援事業所)



### 在宅療養支援診療所 三重東クリニック

〒879-7104 豊後大野市三重町小坂4109-61  
TEL.0974-22-6333

- 三重東介護サポートセンター三つ葉(居宅介護支援事業所)

診療科  
内科・小児科・  
循環器内科



### 江別訪問診療所かかりつけ訪問看護 ちいきの森

住所:〒067-0041 北海道江別市元江別本町1-3  
ホクレンショップ元江別店内  
TEL.011-376-0580



### 有料老人ホーム 海風

〒879-2201 大分市大字佐賀関792-1  
TEL.097-575-4800  
■デイスサービス海風  
海風有料老人ホーム入所(定員37名)  
デイスサービス(定員45名)



### 訪問看護ステーション いろは

〒870-0307 大分市坂ノ市中央3-14-33-1セルコ・メゾンA号室  
TEL.097-535-7577



### 北区王子クリニック

〒114-0002 東京都北区王子2-17-5  
ウエル・ウエル2階  
TEL.03-3913-8725

診療科  
内科・循環器内  
科・禁煙外来



### ケアセンター坂ノ市 ひまわり

〒870-0307 大分市坂ノ市中央3-18-9-1  
TEL.097-585-5818  
居宅介護支援事業所